

ヘルパンギーナが流行しています

【概況】

2023年第26週(6月26日~7月2日)の定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **6.02** となり、流行警報発令基準 6.00 を上回りました。

直近5週間の報告患者の年齢構成は1歳18.0%が最も多く、次に2歳17.9%、3歳16.0%となっており、**0~5歳までで全体の87.3%**を占めています。

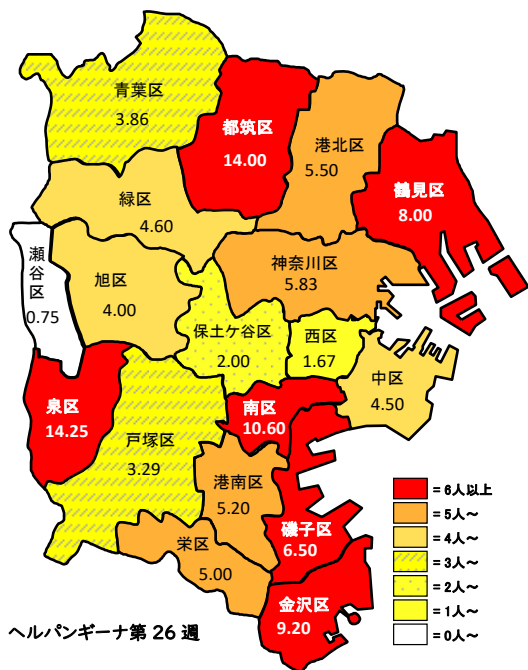
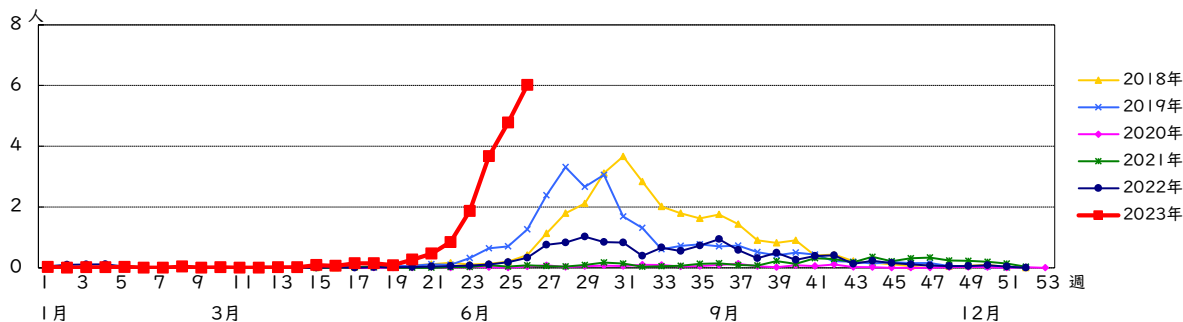
ヘルパンギーナの原因は主に**コクサッキーA群ウイルス**で、市内の患者からも同様に検出されています。

今後さらなる流行拡大が予想されるために、注意が必要です。

※1 定点あたりの患者報告数とは、毎週定期的にヘルパンギーナの患者発生状況を報告して下さる小児科定点医療機関(市内94か所)から報告された患者数の平均値です。

【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は第22週0.84、第23週1.87、第24週3.67、第25週4.78、第26週6.02と増加し、警報レベルを上回りました。



ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナは2~4日の潜伏期間の後、突然の発熱に続いて咽頭痛が出現する感染症です。咽頭粘膜は赤くなり、特にのどの奥に1~2mmの水ぶくれ・潰瘍が出現します。通常は1週間程度で治ります。発熱時に熱性けいれんを起こすことがあります。まれに髄膜炎などの重い合併症が起こる場合もありますので、発熱・頭痛・嘔吐がひどい場合は、早めに医療機関に受診しましょう。

感染経路は接触感染、経口感染、飛沫感染で、予防のためには手洗い、うがいが大切です。回復後も数週~数か月ほど便からウイルスが排出されるため、おむつ交換後などは、よく手を洗いましょう。

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
 横浜市医療局健康安全課 TEL 045(671)2463